

団地の法面を彩る会の活動中間報告

1 この会は、高陽ニュータウンA団地の「さくら自治会」の有志を中心に結成され、居住地の造成斜面の草刈り作業と花木の栽培を行い、地域の景観の美化と生活に潤いをもたらす活動に努めている。

2 活動状況

●**斜面の草刈り作業** 電動刈り払い機で春と秋の2回行い、秋の作業は進行中である。カートリッジのバッテリーも購入して機械力も充実させた。

●**花の植栽** 春—水仙 チューリップ 菜の花(油菜) ネモフィラ 麦 陸稲 など
しこ パンジー ビオラ 矢車草 スノーポール ビスカリア 春車菊 夏—紫陽花 百日草 朝顔 向日葵 タイタンビカス 綿 コリウス 秋—コスモス 彼岸花 マリーゴールド 冬物は植え付け中。

なお、今年はウクライナで戦禍が発生したので、色々な思いを込めて向日葵の栽培には力を入れ、大中小の品種を植え付けた。

以上はいずれも開花状況を見ては切り花を展示して散歩の人々に「お持ち帰り」で提供している。

●**企画物の栽培** ①薩摩芋 ②里芋 ③落花生 ④アトランティックジャイアント
①と②は昨年に続いて自治会行事として活用し、芋掘りと焼き芋は子ども会の児童に楽しんでもらった。その他、大学芋、芋づるのかき揚げ、落花生の煮豆もメニューに加えた。また、里芋は東北地方の郷土料理イベント「芋煮会」用として栽培し、お馴染みの味付けで歓談の輪が広がった。コロナ禍で自治会行事が皆無になった現状で賑やかに開催できたことは喜ばしいことである。

④はこのごろ話題の驚くほど巨大化する外来種のジャンボカボチャ(俗称どでカボチャ)。比較的簡単に100キロ以上にも育つ珍種であり、各地でコンテストが行われている。種子はネットで購入し散歩の皆さんを驚かしてやろうと張り切って取り組んだが、開花までは順調だった成長が人工授粉に失敗し、葉ばかりが巨大化して果実の成長は見る事ができなかった。この企画はウケねらいどころかトホホな結果となった。

3 課題や展望、工夫点

●**今年度の課題の解決** これまで花木への水遣りは各々がペットボトルを猫車などで運んでおり、その数は100本ほどにもなり、これを花壇の隅に無造作に置いていたため見た目が悪く花園の美しさに欠けていた。今年度は助成金が得られたため、足場板で頑丈な棚を製作設置することができた上に、この武骨なデザインの棚を花木によって覆い隠す工夫によって周囲の景観に馴染む形になった。散歩の皆さんの目障りを解消できたのは大きな成果である。

●**通りからは見えない斜面の最上には幅50センチの側溝があり、ここを苗作りなどの作業場に行っているが、この溝に足場板を乗せて安全な作業空間にする工夫をしたいと考えている。**

●**子ども会向けの芋掘り焼き芋大会は今年も盛況で保護者からも喜ばれたが、焼き芋の釜が1台しかないのもう一台自作したいと考えている。出来上がりに時間がかかるので開催時間内に支給しようと思えば調理の量を増やす必要がある。また、作付面積も増やす必要を感じている。現状の生産量は20キロ程度。もう10キロほど欲しい。**

●**芋煮会については、里芋さえ栽培しておけば自治会の備品に大鍋もあり実績もあるので来年も心配は不要。今年も諸経費は自治会の負担とした。できればコンニャク芋も栽培したいと考えている。また、芋煮料理の支給については、現場だけではなく高齢などのために参加できない会員に宅配してあげる段取りも求められるので、事前の広報もしっかりしておく必要がある。ただし、コロナ禍から解放され、かつてのように自治会活動が組織的に健全な状態に回復したら、芋煮会は我々の会とは切り離して実施するべきだと考えている。**

●**SDGsの考え方に沿って展望すると、お陰様で装備が充実しつつあり、花の場合は咲き終わったら種を採集して苗作りをして植え付けに至る、栽培の循環が成立しつつある。購入品と言えば肥料と農薬だけと言って良いほど。ただし、堆肥については町内の一斉清掃で集めた落ち葉と花壇の雑草を現場で発酵させて有機肥料にしている。**